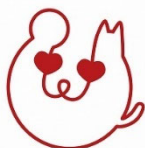


令和 7 年度

けんてい
おおいたっ子ワンニャン検定
テキストブック

★ペットとの楽しい生活をめざして★



おおいた動物愛護センター

なまえ(

)

目 次

I ペットが生き生きと生活するために考えよう・・・(1)

1 ペットの「5つの自由」のこと・・・(1)

2 ペットを飼う前の心がまえ・・・(1)

3 犬を飼うときのルールとところえ・・・(3)

4 ネコを飼うときのルールとところえ・・・(4)

※ さくら猫プロジェクトについて・・・(6)

II 犬やネコとなかよしになるために、体のことや気持ちを知ろう・・・(6)

1 犬の体のとくちょう・・・(6)

2 ネコの体のとくちょう・・・(7)

3 犬・ネコの習性・・・(9)

4 犬・ネコのしぐさと気持ち・・・(10)

※ 新たな飼い主との出会い「譲渡会」・・・(11)



※「ふりがな」は、原則として、最初に出てくる言葉に付けています。

I ペットが生き生きと生活するために考えよう

動物には、人間と同じように、命があり、生きていくために必要なことがある。そのため、ペットの飼い主には、できる限りペットのことを考え、ペットが気持ちよく生活できるようにする責任がある。

動物を愛し、大切にしようとする考え方は、イギリスで最初に広まった。荷物を運ぶ馬車の馬がムチでたたかれ、暑い中水も十分与えられてないことから、馬にも生きるための自由があると考えた。かちくへのこの考えは、世界中に広まり、日本でも1973年(昭和48年)に「動物の愛護および管理に関する法律(略して『動物愛護管理法』)」ができた。

2012年(平成24年)には、「動物は死ぬまで飼うこと」という意味の文が加わり、2019年(令和元年)には、暴力などの虐待の罰則が5年以下の懲役又は500万円以下の罰金に強化されるなどしている。

1 ペットの「5つの自由」のこと

(1) 飢えやかわきからの自由

飼い主は、適切なエサをあげる。水はいつでも飲めるようにしておく。

(2) 不快からの自由

せいけつで安全な場所を用意し、動物が気持ちよく過ごせるようにする。

(3) いたみ・けが・病気からの自由

けがや病気の場合、適切なちりょうを受けさせる。病気の予防を心がける。

(4) 恐怖・抑圧からの自由

ペットが恐ろしさや不安など、大きなストレスを感じないようにする。

(5) 動物本来の行動や習性が表現できる自由

ペットに合った走る、飛ぶなどの運動が自由にできるようにする。

(「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」から)



2 ペットを飼う前の心がまえ

飼い主には、ペットの命を預かる責任と地域社会の中で人とペットが一緒に暮らしていくための責任がある。

(1) ペットのことを知ろう

- ① 犬やネコの寿命は15～20年で、人よりはやく一生が終わる。命がおわるまで、責任をもって飼おう。
- ② 飼い主は、毎日、エサや水を与え、ウンチやシッコをかたづけ、犬の散歩をするなど、休むことはできない。旅行や外出する時の、あずけ先も考えておこう。

(2) 家族みんなで飼えるか考えよう

- ① ペットが病気になったときなど、だれが世話をするのか役割分担を決めておくこと。
- ② ペットの成長にあわせた栄養のあるエサや水を毎日あたえること。
- ③ 飼い始めたその日からペットを家族の一員としてむかえる覚悟をすること。

(3) 住宅事情を考えよう

- ① ペットの飼育が許可されているマンションなどの集合住宅をさがすこと。
- ② 引っ越しの予定がないこと。
- ③ ペットの泣き声、ほえ声、においなどが、まわりの人の迷惑にならないこと。



(4) 飼うためのお金や時間を考えよう

エサ代、ワクチン代など病気になったときの医療費のお金や世話ができる時間が必要なこと。

<参考>1年間にかけた費用（一頭あたり）		
	犬	猫
病気やケガの治療費	80,912 円	49,875 円
フード・おやつ	47,983 円	38,936 円
しつけ・トレーニング料	40,614 円	—
シャンプー・カット・トリミング料	42,740 円	8,294 円
ペット保険料	38,052 円	29,067 円
ワクチン・健康診断等の予防費	28,311 円	12,902 円
ペットホテル・ペットシッター	27,139 円	15,624 円

日用品	19,716 円	17,200 円
洋服	13,603 円	4,321 円
ドッグランなど遊べる施設	7,407 円	—
首輪・リード	7,061 円	2,612 円
防災用品	5,613 円	5,964 円
合計(円)	359,151 円	184,795 円
回答数	1,833 件	409 件

（「2015年1月 アニコム損害保険 KK 調べ」から）

(5) 万が一のためにそなえよう。

災害がおきた時は、ペットと一緒にひなん(「同行ひなん」という)したい。

そのために安全・安心なひなんができるように、次のことを日ごろから心がけ、準備をしておくことが大切である。

- ① ペット用のひなんセット(フード・薬・水・ペットシートなど)をそろえておく。
- ② ひなん先への移動や、ひなん所ですぐすために、「ケージに入る訓練」をしておく。
- ③ 災害におどろいて、にげだしたペットが、飼い主のところへもどれるように、首輪に迷子札をつけたり、背中にマイクロチップをつけたりする。
- ④ ひなん所でのストレスがたまらないように、人や動物などの様々な音・物にならしておく。

3 犬を飼うときのルールとこころえ

(1) 犬の登録と狂犬病予防注射をしよう

- ① 家族の一員として犬にも戸籍がつくられる。飼い主は、犬が生まれて91日を過ぎたら、一生に1回、犬の登録をおこなうこと。
- ② 犬から人にうつると怖い「狂犬病」をふせぐため、日本では、1年に1回、「狂犬病予防注射」をすることが義務づけられている。

(2) 犬の健康に気をくばろう

- ① 健康を守るためには、「病気の予防」と「早期発見」が大切。
 - 伝染病の予防注射をしよう。フィラリア、ノミダニ予防をしよう
- ② 日頃から様子を観察し、ウンチやシッコの色やにおいに注意すること。
- ③ 次の異常を感じたときは、早めに動物病院に相談しよう。
 - 食欲はあるか ● なき声、呼吸はいつもと同じか。
 - せき、くしゃみをしていないか ● ウンチやシッコは正常か
 - 目やに、耳だれ、鼻水などは出ていないか ● 毛づやは、よいか

(3) 子犬の出産について考えよう

- ① 子犬が産まれることを望まないなら、不妊・去勢手術をはやくする。
- ② 不妊・去勢手術を行うと、病気の予防や性格がおだやかになるなども期待できる。
- ③ 子犬がうまれたら、飼い主の責任で新しい飼い主をさがすか、その犬の命がおわるまで飼いつづけること。

(4) しつけをしよう

- ① 犬の習性などをきちんと理解し、種類・性格を考えて、しつけをしよう。
- ② しつけは、人と犬とが幸せにくらすためにも必要。
 - おすわりやふせができれば、おやつをあげる。
 - 遊んでいて、こうふんした時は、落ち着かせて静かになったタイミングでほめる。
- ③ しつけ方がよくわからないときは、おおいた動物愛護センターで行う「しつけ教室」に参加するのも良い。

(5) 適切な飼い方をしよう

- ① 犬の放し飼いは禁止されている。
- ② 犬小屋のそうじはこまめにしよう。ブラッシングなどでせいけつにしよう。
- ③ 飼い犬をつなぐロープなどの長さ、金具がはずれないかなどに注意する。
- ④ さんぽは、その犬の種類や年齢に合わせて行うことが大切。犬が喜んで出かけ、疲れが残らないくらいを目安にして距離を決めるとよい。
- ⑤ さんぽは、エネルギー発散、気分てんかん、ストレス発散にもなる。
 - 必ずリードでつないで歩こう。(リードをチェックして、ゆるめにもつ)
 - ウンチはかならず持ち帰る。
 - 水を入れたペットボトルを用意し、シッコをした場所を洗い流そう。
 - ドックランで思い切り走らせてあげよう。
- ⑥ 飼い主は飼い犬が行方不明になったら、すぐに、「おおいた動物愛護センター」と近くのけいさつしょに「迷子の届出」をすること。

4 ネコを飼うときのルールとところえ

(1) 予防接種を受けさせよう。

- ① ネコの病気を予防するためにワクチン注射が大切。
- ② 病気をおこす相手は目に見えないウイルス。ふつうの薬では、ふせげない。



(2) 子ネコの出産について考えよう

- ① 子ネコが産まれるのを望まないなら不妊・去勢手術をする。
- ② 生まれて約6か月で子ネコを産めるようになるので、手術は早くしよう。
- ③ 不妊・去勢手術を行うと、病気の予防や性格がおだやかになることも期待できる。

- ④子ネコが産まれたら、飼い主の責任で新しい飼い主を探るか、命がおわるまで飼
い続ける。

(3) しつけをしよう

- ①ネコの習性などをきちんと理解し、種類・性格に応じたしつけをしよう。
- ②いつもきれいなトイレを、家の静かな場所に置くなどを心がければ、トイレのしつけ
はスムーズにいく。
- ③つめとぎは、ストレスの発散に大切。つめとぎグッズを置こう。
- ④ネコが楽しむような遊びを多くして、仲良しになったら、少しずつしつけをする。
- ⑤できるだけ早くから、「人はここちよい」という経験をさせる。

(4) 飼いネコの安全・安心を思うなら、完全室内飼育をしよう

- ①ネコは、エサがじゅうぶんあり、適度な上下運動ができ、自分のテリトリーが守ら
れていれば、安心して生活できる。キャットタワーを置くのも良い
- ②オモチャでいっしょに遊ぶなどの時間をつくり、運動エネルギーの発散やコミュニ
ケーションをとるようにしよう。

※《完全室内飼育の良さ》

- 交通事故にあわない
- 感染症にかかりにくい。
- ノミ、ダニの寄生を防ぐとともに、人にうつる病気を予防できる
- 妊娠しない
- 他人に迷惑をかけない
- 迷子にならない

(5) 名札をつけよう

- ①万が一ペットが外へ出た場合のことを考えて、のらネコと間違われのないためにも、
飼いネコには飼い主の連絡先などを記した名札をつけるようにしよう。

- ②マイクロチップをつけることが望ましい。

※2019年6月の動物愛護管理法の改正により、販売用の犬・ネコにはマイクロ
チップをうめこむことが義務づけられている。

(6) のらねこの赤ちゃんを見かけたら・・・

- ①近くに親ねこがいるかもしれないので何もせず様子をみよう。

- ②飼いたいのなら家族と話し合い、完全室内飼育で最後まで責任をもって飼うこと。

※「さくら猫プロジェクト」について

「おおいた動物愛護センター」では、不幸なネコをふやさないために、飼い主がい
ない地域のネコに子ネコが産まれないようにする手術を無料でやっている。

手術をしたネコには、手術済みの「さくら猫」であることを、地域のみなさんが
わかるように、耳にV字カット(オスは右耳、メスは左耳)を入れている。

さくら猫の一生が終わるまで、ボランティアの人々が、えさやりやウンチの片
づけなどをして、命を大切にする活動をしている。

Ⅱ 犬やネコとなかよしになるために、体のことや気持ちを知ろう

犬やネコには生まれつき持っているすぐれた能力がある。その能力を発揮できるよ
うな飼い方をするためには、体の特ちょうなどを知ることが大切である。

1 犬の体のとくちょう

(1) 目・・・近視だけど視野が広く、動体視力はばつぐん

- 人間の視力で表すと0.2～0.3程度。
- 動くものには100m離れていても敏感に反応する。
- 暗いところで見える能力は、人間の8倍と言われている。
- 色の識別能力は低く、赤色を見分けることが難しい。

(2) 鼻・・・人間の100万倍、肉やあぶらのおいは人の1憶倍も感じられる。

(3) 耳・・・人間が聞こえない小さな音が聞き取れる。人間の6倍。

(4) 口・・・においで味わい、肉や草など何でも食べる

- タマネギなどのネギ類、チョコレート、ぶどうを与えると中毒になり、下痢や嘔吐な
どを引き起こし、死ぬこともあるので絶対にあたえないこと。
- 歯は人と同じで乳歯から永久歯へと生えかわる。
- 乳歯は28本、生後6週目ころに、生えそろう。その後、5～7カ月までに、42本
の永久歯が生えそろう。

(5) ひげ・・・感覚器官

- 触覚として身の回りの状態を感じて知るのに役立つ。

(6) 足・・・かりでつちかわれたバツグンの走力

- 走るのが速く、速い犬は時速70kmで、しかも長く走れると言われている。
- 足のうらには肉球があり、わずかに汗をかく汗腺がある。

(7) 赤ちゃんの出産

- 生後約半年から赤ちゃんを産めるようになり、それからは年2回出産できるようになる。妊娠期間は約2ヶ月。

(8) 年齢[人間にくらべると、犬の成長は早い。命の長さは短い]

- 平均寿命は、約14.65歳（2021年「環境省」から）。
- 大型犬より小型犬の方が長生きするけいこうにある。

※ 犬には、人の心をいやす力があり、犬とのふれあいを治療に利用している病院もある。このことを「動物介在療法」という。

2 ネコの体のとくちょう



(1) 目・・・暗いところでもよく見える

- 夜行性であり、「タペタム」という部分が弱い光を大きくする。
- 光の量や感情によって、ひとみの大きさが変わる。
- 人間が見えなくなる6分の1程度の明るさでも物を判断できる。

(2) 鼻・・・犬ほどではないが、人間の20～27万倍の能力がある

- 物の温度も測れると言われている。

(3) 耳・・・ネコの感覚で一番すぐれている。人には聞こえない高い音を聞き分ける

- 人間は2万ヘルツまでだが、ネコは6万ヘルツまで聞ける。
- 音源の方向や距離を知る能力にすぐれている。
- ネコの耳は左右別々に180度動き、広範囲の音をキャッチできる。

(4) 口・・・においで^{あじ}味わい、すっぱい味に^{びんかん}敏感

- もともと肉食^{にくしよくどうぶつ}動物で、えものの肉がくさっているか判断^{はんだん}するため^{はったつ}発達。
- アワビなどの貝^{かい}類はネコにとって^{どく}毒になる。タマネギなどのネギ^{るい}類、アボカド、チョコレートなどのお菓子^{かし}は絶対^{ぜったい}にあたえないこと。
- 舌はトゲ状のときでザラザラしている。。スプーン、フォーク、ブラシ代わり。
- 歯^はは人と同じように、乳歯^{にゅうし}から永久歯^{えいきゅうし}へと生えかわる。
- 乳歯は26本、生後6週目頃^{せいごころ}に生えそろう、その後、6カ月までに30本の永久歯が生えそろう。

(5) ひげ・・・情報^{じょうほう}を集めるために根本^{ねもと}に、たくさん^{しんけい}の神経がある。

- せまいすき間^まのはばを、はかりながらぬけだすことができる。バランスも取れる。

(6) 足・・・しゅん^{ぱつ}発力、バランス感覚^{かんかく}はバツグン

- 前足^{まえあし}は、えものをつかまえるときに使う^{つか}。たたく、パンチ、すくい上げるの3つの動き^{うご}が特徴^{とくちょう}で、後ろ足^{うし}よりも大きい。
- 後ろ足は、前足より長く、強い筋肉^{ながつよきんにく}でダッシュやジャンプ、木登り^{のぼ}をする。
- 足の裏^{うら}には音を立てずに歩けるパッド^{ある}がある。えものにとびかかるときだけツメを出す。しっかりととらえるため、ツメとぎの習性^{しゅうせい}がある。

(7) しっぽ・・・バランスを取るのに^{じゅうよう}重要

- 高い場所^{たかばしよ}やせまい場所ではしっぽを上下左右にふってバランスをとる。
- 高い場所から落ち^おることもあり、体を回転^{からだかいてん}させて足から着地^{ちやくち}することができる。

(8) 赤ちゃん^{しゅっさん}の出産

- 生後約半年^{せいごやく}で赤ちゃんを産^うめるようになり、以後^{いご}、年3～4回^{かんかく}の間隔^{しゅっさん}で出産できるようになる。
- 妊娠期間^{にんしんきかん}は平均^{へいきん}で約2ヶ月ちよっと。
- 1頭のめすネコが1回に6頭^{とう}出産し、1年間に3回^{とう}出産したとすると、1年間^{ねんかん}に約60～80頭^{やく}にふえるとされている。

(9) 年齢[人間に比べるとネコの成長は早い。命の長さは短い]

●平均寿命は、約15.66歳（2021年「環境省」から）。

3 犬・ネコの習性

犬・ネコは家族同様のペット(コンパニオン・アニマル)と言われる。犬・ネコと人が共に生活するうえで、犬・ネコの習性など基本的なことを知っておこう。



(1) 犬の習性

① 記憶力がよく、感情が豊か。

② なわばりをつくるために、あちこちにシッコをしてにおいをつける(マーキング)。

③ 動くものを追いかけて、つかまえようとする。

●うなる犬の前では、急に走りださないこと。電柱のようにじっとしていると効果的。

④ キレイ好き。

●犬小屋の掃除をこまめにする。ブラッシングで清潔にする。スキンシップにもなる。

⑤ 飼い主に深い愛情をもつ。

●正しくしつけ、愛情をもって接することで、言うことをよく聞く。

⑥ 運動が好き。

●毎日かかさずにさんぽを。夏の暑い時は、朝や夕方のすずしい時間に行く。

●ドッグランで自由に走らせる。

※ 初めて会う犬には、飼い主さんに「さわってもいいか」とたずねて、許してもらったら、背中やあごのあたりを、やさしくなでる。
人間が近づくことを望まない犬もいるので気をつける(イエローダッグ)こと。

(2) ネコの習性

① 夜行性で、高いところを好む。

●1日のうち、約半分の13時間くらい眠っている。

●自由にのぼりおりする、上下運動がすき。

●キャットタワーで運動不足や、ストレス解消をさせてあげよう。

② 単独行動を好む。

●自由をうばうことを嫌う。

③警戒心^{けいかいしん}が強い^{つよ}。

●飼育場所^{しいうばしょ}に隠れる^{かく}ことのできるような、環境^{かんきよう}づくりが大切^{たいせつ}。

④キレイ^ず好き

●お風呂^{ふろ}のかわりに体をなめて毛^けなみを^{ととの}整える。(グルーミング)

⑤ウンチやシッコを埋^うめる。

●外敵^{がいてき}から身^みを守る^{まも}ため。

●こまめにトイレを掃除^{そうじ}しよう。

⑥好奇心^{こうきしん}が強い。

●動く^{うご}ものを追^おいかけたり、飛びついたりする遊び^{あそ}びがすき。

●ネコじゃらしなどで、遊^{あそ}んであげよう。

⑦ツメをとぐ。

●かたいものにツメをこすりつけ、古いツメをはがし、鋭^{するど}くする。

●ネコの肉球^{にくきゅう}からでる強いニオイを、ツメとぎでニオイをつけ、マーキングしている。

●ツメとぎ^{ようい}を用意しよう。

4 犬・ネコのしぐさと気持ち

犬・ネコもいろんな気^き持^もちをしぐさ^{しぐさ}で表現^{ひょうげん}する。その表現^{ひょうげん}の意^い味^みを知^しることで犬・ネコとの楽^{たの}しい生^{せい}活^{かつ}をおくることができる。

(1) 犬のしぐさと気^き持^もち

①ねむたくないのにあくびをする「めんどうくさいなあ。」

②飼^かい主^{ぬし}の顔^{かお}をなめる「なにか食^たべ物^{もの}がほしいな。いうことをきくよう。」

③おなかを見せる「あまえたいな～。あなたにしたがいます。」

④舌^{した}を出してハアハアする。「暑^{あつ}いよう。」

(2) 犬のしっぽと気^き持^もち

①はげしくふる「楽^{たの}しい。うれしいよう。」

②足^{あし}の^{あいだ}間^まに入れる「こわいよう」

③下げたまま左右^{さゆう}にふる「なにか気^きになる～」



(3) ネコのしぐさと気持ち

- ① のどをゴロゴロ鳴らす「きもちいいな～」
- ② 体や頭^{あたま}をこすりつける「あそんでよ～。ごはんちょうだい」
- ③ 耳をペタンと下げる「こわいよ～」
- ④ じゃまをしてくる「かまってよ～。ふりむいて！」



(4) ねこのしっぽと気持ち

- ① しっぽをピンと立てる「うれしいよ～」
- ② しっぽの先^{さき}だけがピクピクと動^{うご}いている「えものをつかまえるぞ！」
- ③ 毛^けがさかだって太くなる「こわいから近づかないで！」

※新たな飼い主との出会い「譲渡会」

おおいた動物愛護センターは、平成31(2019)年2月17日に開設した。
動物の命^{いのち}を救^{すく}うために、新たな飼い主^{あら}に出会い、家族^{かぞく}として引^ひきとってもらおうと
いう「譲渡会」をおこなっている。

新たな飼い主に出会い、引きとってもらった犬・ネコの数

2019年(開設時)～2025年6月30日現在

● 犬(848頭) ● ネコ(1878頭) ● 合計(2726頭)



おおいた動物愛護センター